

平成26年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493200289	事業の開始年月日	平成24年4月1日
		指定年月日	平成24年4月1日
法人名	株式会社 グリーンネット		
事業所名	コラージュ二俣川		
所在地	(241-0821)		
	横浜市旭区二俣川 2-58-8 アベニール 4階		
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	25名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	15名
		宿泊定員	5名
		定員計	名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	平成26年12月22日	評価結果 市町村受理日	平成27年5月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wp/IDetails.aspx?IGNO=ST1493200289&SVCD=730&THNO=14100>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者やご家族の「自宅で暮らし続けたい」という思いの実現のために、事業所としてできることは最大限に協力をさせていただいています。また、階下に保育園があり、季節毎の行事の際は交流を深めており、日常的に子供と触れ合う機会が多くご利用者の元気の秘訣になっております。ご利用時に近くのスーパーで買い物をしたり、天気の良い日はドライブや散歩に出かけるなど、季節を感じながら生活できるように配慮しております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成27年2月12日	評価機関 評価決定日	平成27年4月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は相鉄線二俣川駅から徒歩3分、大通り商店街から一步入った静かな環境の中にあります。事業所は法人のビルの中にあり、1～3階は保育園、4階が小規模多機能型居宅介護事業所、5階は訪問介護事業所及び法人本部のあるしゃれた複合建物の中にあります。駅に近く、銀行や商店街、大型スーパーのある便利なところです。

<優れている点>

1～3階は法人傘下の保育園で朝の挨拶から行事やイベントなどを通して園児と利用者との相互の交流が盛んで利用者の楽しみとなっています。運営推進会議のメンバーに、地域の3自治会会長、地元商店会会長が参画していて地域の行事紹介、情報交換、意見交換が活発に行われています。事業所の季刊誌「コラージュ二俣川通信」を280部以上配布、事業所の機能や利用者及び家族の利用内容などを掲載し、広い地域に積極的に情報発信をしています。福祉に豊富な経験の職員に加えて、法人の研修制度の取り組みでサービスの向上に努めています。ビルの4階にある事業所からは眼下の眺めや遠く丹沢の山々、霊峰富士山が臨まれ利用者の楽しみや自慢となっています。

<工夫点>

洗面台やトイレ、浴室などに大きな鏡が設置してあり、職員は常に自身の「笑顔」で鏡に問いかけ笑顔のある理念の実践に努めています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	コラージュ二俣川
ユニット名	

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	職員全員で作上げた理念を事務所やホール目のつくところに掲示し、毎朝読み合せを行い、理念を共有し、介護を実践しています。	開設時に皆で作った理念をその後職員、管理者で見直し、分かり易く作り上げています。事務所に掲げ共有しています。職員は常に「笑顔と安全に心がけ」の理念をモットーに実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、町内会の夏祭り等に参加しています。年に数回、コラージュ通信を配布しています。同じ建物にある保育園の行事参加も積極的にを行っています。	地元自治会に加入し、さらに他の自治会や地元商店会とも広く交流を図っています。夏祭りや地域の消防訓練に参加しています。地元スーパーの買い物などで地域の人達と、また階下の保育園児とは朝の挨拶や行事などで相互に交流をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議で地域の方に事例を報告しています。地域の包括センター等から見学の依頼を受け利用者それぞれの特性や対応を知って頂き、徘徊や迷子等があった場合の協力をお願いします。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	三地区の自治会長、地域包括支援センター、利用者家族などの参加を得て2ヶ月に一度開催し、事例やその時々困っていること等をお話しし、ご提案、ご意見を頂き、それを基に日々のサービス向上を目指し介護を実践しています。	会議は2ヶ月ごと年6回行っています。委員は家族や利用者、3自治会長、商店会会長、地域包括支援センター、薬局店です。活動報告のほか、地域防災拠点への参加、通信パンフの作り方、行事やイベントの紹介など事業所の運営に反映しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	困難事例の利用者について市の障害支援課の担当者との連絡を取り、利用者の現状の把握や自宅訪問時に同行して頂く等、協力を頂いています。	運営推進会議の報告や要介護認定更新、困難事例の相談など行政との連携を図っています。市の主催、認知症の研修などは運営に活かしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「コラージュ二俣川における身体拘束その他行動制限廃止マニュアル」を定め、全職員に周知、徹底を図っています。全員が身体拘束をしないケアに努めています。	身体拘束禁止の方針は契約書に詠っています。マニュアルや研修で周知しています。不適切な言葉は事例があればミーティングで注意を喚起しています。玄関は日中は施錠していません。利用者の外出の様子があれば見守り同行しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	月1回のカンファレンスや日々のミーティングで職員全員のケアについて確認しています。不適切な対応については随時声掛けを行い気付かぬ内に起こる虐待の予防に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	運営推進会議の講師として弁護士を招き、成年後見制度についての講演を行い、職員、ご家族、地域の方々と共に学ぶ機会を設けました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	見学時に疑問や不安をお聞きし、利用時間や料金等希望への対応をお伝えし、利用者やご家族の不安なく契約が出来るよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者本人やご家族からの要望は朝のミーティングで対応を決めるようにしています。その際必ず申し送りノートに書き込み、ミーティングに参加出来ない人も把握することを徹底しています。	送迎の際や連絡帳で要望、意見を聞いています。送迎の時間変更の相談、保育園児の顔を見たい、通いの合間にスーパーの買い物をしたいなど家族や利用者の要望、意見は日々の支援つなげています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は毎朝のミーティングや月一回の定例ミーティング等で職員の意見・要望を聞き、日々の運営に活かしています。また、今年から会社挙げて提案書というシステムを導入し、小さな気付き等を上手く代表に提案出来るようになりました。	月1回の定例ミーティングや、毎月の提案書提出の機会にあり、法人代表は提案内容を事業所の運営に反映するようにはしています。送迎時の運行シフト変更、加湿器の購入、休憩時間の改善など職員の要望や提案の実践事例です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員それぞれの技術や勤務状況を把握し、その上でスキルや能力に対する給与水準を決め、やりがいの持てる職場環境・条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職場内では管理者やリーダーにより定期的に勉強会を行っています。職場外では能力に応じた研修の機会を掲示し、参加を推奨しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域包括支援センターや近隣の居宅介護事業所等の見学を受け入れていきます。横浜市小規模多機能連絡会への参加も行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	相談を頂いた時点でその方の現状を可能な限り把握し、見学と体験利用により本人が安心して利用できるよう関係づくりに努めています。契約後も常に本人と家族の意向を確認しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用相談の際に家族の状況を把握し、必要な援助について話し合い、納得を得られてから契約することとしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族の状況により「その時」にまず必要とされている支援を見極め、利用法を提示しています。状況によってはグループホーム等の入所の援助も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者それぞれの得意なことや好きなことを行って頂き、生活の技や文化など培ってきたことを教えて頂くことで人生の先輩として尊敬の念を持って接しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用時の様子や変化などを連絡帳や電話、また送迎時など適時にお伝えしています。本人と家族を共に支えていくための協力関係づくりに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者とその友人・知人の予定などに配慮し、半日の利用としたり友人・知人との集合場所まで送迎したり、出来るだけ今までの施設外の人間関係が継続できるよう支援しています。	友人が自宅に行かず訪ねて来ます。事業所から老人会への出席やスーパーでの買い物など継続の支援をしています。編み物や手芸工作など自宅での生活習慣を事業所でも出来るよう支援をしています。自宅農家の野菜を持ち込み食膳に出すこともあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	認知症である利用者とそうでない利用者との関わりを把握し、座席など十分に配慮をしています。トラブルなど起きないよう職員が寄り添い良い関係になるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了しても、移行先のケアマネなどと適宜情報交換しながら移行先でのスムーズな利用を支援しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は、日々の会話や仕草などから利用者の思いや意向の把握に努めています。意思疎通が困難な方には家族や関係者からも情報を得るようにし、把握した思いや意向は、ミーティングとカンファレンスで情報を共有しています。	送迎の際や日頃の会話を通して把握しています。利用者によっては1対1の時、夜間やソファでくつろいでいる時に把握しています。意思表示の困難な利用者は表情や態度で汲み取ることもあります。また、家族の協力や生活歴を参考にすることもあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族や以前のケアマネ等に生活環境や趣味等の情報を頂くと同時に本人との会話や言動から今後のケアに繋がるよう職員間で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者と一緒にレクリエーションや送迎時など可能な限り会話をする中で体調や心の変化などを見逃さずに記録しています。常に職員間で共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人の想いやご家族の希望を踏まえながら、日々の生活の中で気づいたことを職員間で話し合い、それぞれの方にとって最良のプランを作成しています。	半年ごとにアセスメントやモニタリングを経て計画の見直し、計画書の作成をしています。モニタリングの際は職員、管理者、計画担当者が参画し、家族の意見や医療情報も反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常生活状況の記録とともに特徴的な言動や行動を特記事項として記録し、情報の共有を図ることで計画の見直しの際にも活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	家族の希望により通いの延長や緊急の宿泊、配食や訪問など本人の状況と家族の要望に合わせて可能な限り対応するようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の民生委員や市の障害支援担当者等と連絡調整しながら、通い、配食による安否確認、送迎時の環境整備などにより支援を行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医を継続して利用していたために状況報告を適時行い薬を飲みやすいよう形態を変えて頂くなど適切な医療を受けられるための支援を行っています。	日常のかかりつけ医への受診は家族が対応しています。認知症などの専門病院を紹介した時は、初回の受診は利用者・家族・管理者も同行しています。通院で家族対応が原則ですが、できない時は、職員が同行しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	通い利用時の検温、血圧測定や食事摂取状況、また入浴介助時異常や変化があった時には看護職員に報告と相談を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院する際は、利用時の状況やその他の必要と思われる情報について提供を行っており、入院中は医師の病状説明の際に同席させていただいています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期を在宅で過ごしたいという本人と最期は一緒に居たいというご家族の想いを叶えるために事業所で対応が可能である方法について提示し、納得いただいた上で対応を行っています。	終末期については家族の相談にのり、医療関係を紹介しています。在宅看取りについては訪問医を紹介しています。運営推進会議ではADLの低下した利用者を看取りを含めた介護について意見や要望を聞いています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	消防署主催の救命救急講習会を職員全員で受講しており、AEDの使用方法についても定期的に勉強会を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練は、消防署の協力を得て実施しています。運営推進会議の時間に合わせて実施し、避難経路の確認や消火器の使い方なども行っています。毎回、地域の方にも参加していただいております。	火災想定・夜間防災総合訓練実施表に基づき消防署・三自治会長・薬剤師・利用者・職員の参加で年2回実施しています。手順・対応の仕方、所要時間が2色で、実施後の感想や提言が明記されています。玄関には非常持ち出しリュック・ヘルメットがあります。	備蓄は同ビルの本社管理としています。事業所内でも必要な備蓄があります。備蓄リストの作成、賞味期限の表示などを整理して目につく所に掲示しておくことも期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の援助をする際には他の利用者の視線等に配慮し、尊厳を失うことのないように言葉かけや誘導を行うようにしています。	接遇の研修は新人研修時と年1回4月に実施しています。日々の関わりの中で言葉かけや接し方など職員同士で研鑽をしています。写真などの掲載には契約時に同意書を貰っています。プライバシーに関する記録のファイルなどは鍵のかかる戸棚で管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中で1対1の会話、観察をしながらご利用者の想いを読み取るようにしています。またスタッフ間で話し合い、その思いに応えられるように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースに合わせた支援を行っています。それぞれの利用者が過ごしやすと思われる環境づくりに努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者それぞれのこだわりの服装や化粧など、ご自身が気に入っているものをお持ち頂き、入浴後、昼食後など整えて頂き、日々気持ち良く過ごして頂けるよう支援を行っています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理の得意な方には下ごしらえの手伝いをして頂いたり、食事前のテーブル拭きや下膳のお手伝いをして頂くなど職員と一緒にして頂いています。	食材や献立は業者委託で調理担当の職員がいます。時には地場野菜を貰い利用者と調理しています。行事食も献立にあり外食はしていません。誕生会やおやつは手作りで好みを取り入れて利用者と一緒に楽しみながら作っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの歯や嚥下状況について理解しそれぞれに合わせた形状や量、また食事制限の方の食材を把握し対応できるように努めています。また、食事摂取量や水分摂取の状況を介護記録に記入し対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを食後援助を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	各トイレに排泄チェック表を設置し、記入するようにしています。それぞれに合わせた声掛け、誘導を行い失禁を予防し、トイレでの排泄が出来るよう支援しています。	トイレ誘導は定時に一人ひとりに声掛けをしています。パットの使用量が減り、夜間は紙おむつからリハビリパンツ対応になっています。排泄チェック表はトイレ内のケース横に裏側にしてプライバシーに配慮しています。DVDの活用で下肢筋力を付けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分をしっかりと摂り、体操や散歩、運動によるレクリエーションを行うことで便秘対策に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	利用者それぞれに時間帯や介護者の男女の希望をお聞きし、可能な限り意向に沿った入浴をして頂いています。また、入浴剤を利用したり、季節のゆず湯などを楽しんで頂いています。	入浴は希望を取り入れながら週2～3回、1対1の同性介助で家庭と同じように入浴しています。車いすの人は2人で対応しています。失禁の場合トイレから浴室へ直接誘導でき、プライバシーと清潔が保時できる設計です。季節湯では自宅で採れた柚子を入れてます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの時々状況に応じてベッドやソファなどで休息して頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者一人ひとりの薬の効能書をファイルしており、効能や副作用、注意事項について情報を共有し、薬の準備や服薬援助の際もダブルチェックを徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者一人ひとりの好みや得意なことを把握して手芸、将棋またカラオケセットを利用し歌を楽しんで頂くなどそれぞれがお好きな活動が行えるよう支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候の良い日は散歩やドライブに出かけたり、近隣の大型スーパーを散策するなど、外出による気分転換に積極的に取り組んでいます。	日常は近所の散歩や、馴染みのスーパーへ買い物へ出かけています。午後から所属している自治会の老人会へ出かける人もいます。少し離れた南本宿公園の散歩や大勢で出かけるときは車を使用して大池公園へ出かけたりしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物の際にご自身の支払いはご自分で行っていただくこととしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	宿泊時や通い利用時にご家族への連絡を希望される方には、事業所の電話でご自分でかけて頂くように援助しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎朝清掃を行い、特に手すりなどは感染予防のための拭き掃除を徹底しており、壁には利用者と職員が共同作成した季節の作品を飾るなどして、心地良い空間づくりを心がけています。	玄関からバリアフリーで、床材はソフトで歩きやすく明るい共有空間です。梅や雛人形の貼り絵などを飾り季節感を出しています。フローアから富士山が望められ気持ちも和む場所です。6角型テーブルを備え、食事や行事の際は利用者の好みに合わせ変えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	席は利用者の相性や認知症等その方の特性を考慮して毎日決めており、休息を希望される方には個室やソファなどご自分の好む場所で寛いで頂けるように配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	初めて宿泊される方にはトイレの近くが良いか、部屋の方角の希望などをお聞きし部屋を決めており、再度宿泊される際には、以前使用した部屋に泊まって頂けるよう配慮を行っている。	宿泊定員は5名で、トイレが近くにある3室が個室で2室がパーテーションで仕切ります。寝間着と洗面用具だけ持参すれば宿泊出来ます。馴染みの枕などを持参する人もいます。宿泊を上手に活用して家族とのかかわりを支援をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	フロアはバリアフリーとなっており、事務所から全体が見渡せるようになっている中で利用者が自由に動き、職員が過度の援助をすることなく寄り添うことで、事故の防止に努めています。		

